

色絵 丸文 瓶  
伊万里(古九谷様式)  
江戸時代(17世紀中期)  
高23.1cm



色絵 獅子  
伊万里(祐右衛門様式)  
江戸時代(17世紀後半)  
高14.3cm



染付 竹虎文 皿  
伊万里  
江戸時代(19世紀)  
口径53.6cm

# 古伊万里 幻獣 大全展



色絵 龍鳳凰文 帯輪形鉢  
伊万里  
江戸時代(18世紀前半)  
口径24.0cm



色絵 赤玉腰瑠璃文 鉢  
伊万里  
江戸時代(18世紀前半)  
口径12.8cm



色絵 蝶龍唐草文 片口  
伊万里  
江戸時代(17世紀末~18世紀初)  
口径10.6cm



会期 2022年1月7日(金)~3月21日(月・祝)

## 概要

2022年は寅年にあたります。今展では、江戸時代に魔除けや強さの象徴として親しまれた虎をはじめ、瑞兆として尊ばれた龍や鳳凰、麒麟などの幻獣、物語に登場する動物に注目して古伊万里をご紹介します。

# 古伊万里にあらわされた “幻獣”大集合

幻獣とは伝説、伝承上の動物のこと。『幻獣辞典』（Jorge Luis Borges “El Libro De Los Seres Imaginarios”1967）にて「想像の存在」と訳されるものたちを指します。

江戸時代に実用品として作られた伊万里焼（古伊万里／こいまり）には、龍や鳳凰（ほうおう）、麒麟（きりん）、獅子（しし）といった「想像の存在」が器種、文様の主副問わずしばしばあらわされています。こうした幻獣は辟邪（へきじゃ／悪いものを退ける）や瑞祥（ずいしょう／めでたいことが起こる前ぶれ）として古来尊ばれてきた瑞獣です。生活の中で使用するうつわに破邪招福のモチーフが度々選ばれたのには、健康で豊かな暮らしを祈る人々の願いが込められているのでしょうか。

「想像の存在」に加えて、現代の創作物においては実在の動物であっても特別な力を備えたものに対して「幻獣」という言葉を使用することがあります。今展ではこの考え方を応用し、江戸時代に魔除けや強さの象徴として親しまれた虎や、仙人の乗り物で長寿の象徴である鶴といった、物語の中で特別な意味を持った動物も「幻獣」として扱いました。

2022年は壬寅。厳しい冬が終わり、陽の気が満ちる芽吹きの日とされます。破邪招福の動物を中心に、世の中を明るく照らしてくれそうな幻獣の描かれた古伊万里約80点をご紹介します。

《展覧会紹介文》どうぞご利用ください。

■28word （文字数要確認）

虎や龍、鳳凰、麒麟など破邪招福の動物の描かれた古伊万里約80点を紹介。

■95word

2022年は寅年にあたります。今展では、江戸時代に魔除けや強さの象徴として親しまれた虎をはじめ、瑞兆として尊ばれた龍や鳳凰、麒麟などの幻獣、物語に登場する動物に注目して古伊万里をご紹介します。

## 主な出展作品



①色絵 龍鳳凰文 雪輪形鉢 伊万里  
江戸時代（18世紀前半）  
口径24.0cm 戸栗美術館所蔵



龍は古代中国からあらわされる想像上の動物。水を司り、天に昇り、雲を起こして雨を降らすと信じられ、豊穰の神としても祀られました。鳳凰も古代中国より確認でき、徳の高い君子が帝位に即くとあらわれるとされています。いずれも麒麟・亀とともに四霊に数えられ、慶事を知らせる瑞獣とされています。本作は口縁を雪輪形とした鉢。見込に染付の団龍、周囲四方に繊細な色絵と金彩で鳳凰が描かれています。



②色絵 螭龍唐草文 片口 伊万里  
江戸時代（17世紀末～18世紀初） 口径10.6cm 戸栗美術館所蔵

碗形に嘴(くちばし)のような小さな注口をつけた片口(かたくち)。三方に配した如意頭(にいとう)形の赤窓に金彩で螭龍(ちりゅう)を描き、周囲は小花を散らした愛らしい唐草を描いています。螭龍は龍の一種で角が無いのが特徴。伊万里焼には初期から時代を問わずあらわされています。黒・赤で描く蔓や葉の輪郭線は肥瘦なく均一な細さで、全体に繊細な絵付けを施しています。注口の縁にも金を塗るなど、細部まで丁寧な仕上がります。



### ③色絵 獅子 伊万里（柿右衛門様式）

江戸時代（17世紀後半） 高 14.3cm 戸栗美術館所蔵

獅子は中国・漢時代に西域諸国より貢物として伝来したライオンを元に創造された瑞獣。ライオンの持つ権力と猛威の象徴といった力強いイメージから辟邪の動物とされました。本作は鮮やかな色絵で賦彩された獅子像。類似する一対が英国・パーリーハウスコレクションに確認でき、本作も西欧貴族の館を飾ったものとみえます。型押し成形の後、焼成の際に歪みが生じバランスを欠きますが、頼りない姿勢と困り顔が相俟って何とも愛らしい作品です。



### ④色絵 赤玉瓔珞文鉢 伊万里

江戸時代（18世紀前半）

口径12.8cm 戸栗美術館所蔵



麒麟は中国で龍・鳳凰・亀とともに四霊に数えられる瑞獣。仁徳のあるものが帝位に即く時のみ姿を見せると言われています。本作は見込に染付で麒麟を描き、周囲に赤玉瓔珞(ようらく)文をめぐるせた小鉢。外側面は瑠璃釉の地に金泥を塗り、搔き落としにより宝相華(ほうそうげ)唐草を丁寧にあらわしています。見込を隆起させた饅頭心(まんとうしん)形や外側面の意匠は中国・明朝嘉靖(かせい)年間（1522～66）頃の金欄手(きんらんて)に倣ったもの。



### ⑤色絵 丸文瓶 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17世紀中期）

高23.1cm 戸栗美術館所蔵

胴部に丸文を配し、中に松竹梅や鶴亀を描いた瓶。鶴は千年、亀は万年生きるとされる瑞獣。このことから鶴亀の組み合わせは長寿を祈る吉祥文様としてしばしば登場します。鶴は中国では仙人が乗る禽獣であり、日本では七福神の一人である福祿寿が連れている瑞鳥。亀は古代中国で甲羅を亀卜(きばく)に使用し、吉凶を知るものとして龍・鳳凰・麒麟とともに四霊に数えられました。特に甲羅に藻草を背負った蓑亀(みのがめ)は長寿の象徴として喜ばれ、日本の絵画や工芸品にあらわれます。



### ⑥染付 竹虎文皿 伊万里

江戸時代（19世紀） 口径53.6cm 戸栗美術館所蔵

雷鳴の様な咆哮で風を起し鋭い眼光で相手を威嚇する虎は、中国では畏怖の象徴として魔除けの力を持つとされました。山獣の君主と言われ、日本では主人を守る勇猛な動物として扱われました。本作は、迫力のある虎が描かれた大皿。虎は竹林に住むとされ、伊万里焼でも早くから扱われる組み合わせです。19世紀の伊万里焼の虎文様には、デフォルメされた力強い表現が見られます。本作も虎を見込に大きく配し、周囲に竹を放射状にめぐらせる斬新な構図です。

ちなみに、戸栗美術館の創設者 戸栗亨は寅年生まれ。このことから、虎の描かれた伊万里焼を進んで蒐集したようです。2022年は開館35周年。5年毎のメモリアルイヤーと寅年が重なる60年に1度の機会。今展では第3展示室を虎文様作品の部屋としました。時代や技法によって様々な表情を見せる虎文様の伊万里焼をお楽しみください。

# 古伊万里幻獣大全展

会期

2022年1月7日（金）～3月21日（月・祝）

概要

2022年は寅年にあたります。今展では、江戸時代に魔除けや強さの象徴として親しまれた虎を中心に、瑞兆として尊ばれた龍や鳳凰、麒麟などの幻獣、物語に登場する動物に注目して古伊万里をご紹介します。

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3

開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

※毎週金曜日・土曜日は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）

休館日：月曜日・火曜日

※1月10日・3月21日（月・祝）は開館。

入館料：一般1,200円/高大生700円/小中生400円

※1月7日（金）～1月30日（日）は新成人の方は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

HP：<http://www.toguri-museum.or.jp/>

Instagram：[https://www.instagram.com/toguri\\_museum/](https://www.instagram.com/toguri_museum/)

Twitter：[https://twitter.com/toguri\\_museum](https://twitter.com/toguri_museum)

※上記の内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承くださいませ。

## 美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



### 2022年、戸栗美術館は開館35周年を迎えます

戸栗美術館では開館35周年を記念して、2022年4月より以下の特別展を開催予定です。

2022年4月1日（金）～7月18日（月・祝）

開館35周年記念特別展 鍋島焼—200年の軌跡—

2022年7月29日（金）～11月6日（日）

開館35周年記念特別展 古伊万里西方見聞録展

2022年11月21日（月）～12月29日（木）

開館35周年記念特別展

戸栗美術館 名品展Ⅱ—中国陶磁—

2023年1月15日（日）～3月26日（日）

開館35周年記念特別展 初期伊万里・朝鮮陶磁

### 展覧会に関するお問い合わせ

本プレスリリースに掲載の作品および展覧会ポスター画像データをご用意しております。また、メディア関係者の方のご取材を随時承っております。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

公益財団法人 戸栗美術館  
広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL：03-3465-0070

FAX：03-3467-9813

URL：<http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail：[kouhou@toguri-museum.or.jp](mailto:kouhou@toguri-museum.or.jp)